

## 平成 30 年度避難訓練

### 課題

- ① 避難訓練実施に関するもの
  - ・しょうがい学生の防災訓練への参加意識(車いす学生 11 名中、不参加 2 名)。
  - ・教職員との連携(今年度は、学生課からの声かけで厚生委員会メンバーの協力有)。
- ② 個別避難に関するもの
  - ・誰が見てもわかりやすい個別避難計画書の作成。
- ③ 大学で被災した際の現実に即した避難方法について
  - ・学生が避難する際の支援者の確保(しょうがい学生 11 名)に対しての人員配置。また、肢体しょうがいのある学生以外のしょうがい学生への対応。

### 成果

- ① 避難訓練実施に関するもの
  - ・多くのボランティアに参加してもらえたことで活発な議論ができた。
  - ・個別避難計画書の作成の回数を重ねるごとにしょうがい学生の防災意識が向上した。
- ② 個別避難に関するもの
  - ・車いすごとの避難、おんぶ、担架での避難と本人の身体状況および希望に応じた避難方法の経験により自身の身体状況に即した避難方法が分かったこと。
  - ・車いすの構造を知った(避難する際にどこを持ってもらえばよいか分からなかったなど)。
  - ・昨年(平成 29 年度)の避難訓練時とは異なる避難方法を自らで申し出て経験したこと。
- ③ 大学で被災した際に現実的な避難方法について
  - ・しょうがい学生と支援者双方にとってできるだけ安全な避難方法を模索することができた。

### 平成 31 年度の避難訓練に向けて

・平成 30 年度と同様に、避難訓練・個別避難計画書作成は、しょうがい学生と支援者が震災時の危機管理について考え、個々に即した避難訓練を実施する機会である。しょうがい学生には継続して参加するよう促し、卒業後も身体状況に応じた個別避難計画書を自身で作成できるようにする。また、ボランティアで参加するしょうがいのない学生もしょうがい学生の避難方法を知ること、災害弱者への理解が深まると思われる。しょうがい学生がどこで被災しても、本人が周囲の人へ避難方法を伝え避難できるようスキルアップを目指し、さらに身体しょうがいだけでなく発達しょうがいも重複している学生が入学してくることも踏まえ(パニックをおこす可能性あり)、教職員を含めた訓練ができるよう働きかけていきたい。